

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月23日(火)

会場:和田コミュニティセンター

参加者数:18人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>少子高齢化が問題で、草刈りについても、ジモティーと連携できればいいが、実行することが重要である。JAとのタイアップや、第3セクターを設立するなど、農業機械を一つにまとめて、地域で動ける人が手伝いをするような仕組みづくりが必要ではないか。</p>	<p>少子高齢化は、全国的な課題である。定住につなげるまでのアプローチとして、農業体験や観光などで、三次市とゆかりや関係を持つ人を増やすこと、三次市の自然が豊かで、子育ての施策が充実していることなどを周知することが重要である。また、各地域における受入れ態勢も重要である。以前は、移住後のコミュニケーションなどが課題となっていたため、各地域に集落支援員を配置し、空き家の活用等を進めている。ブランドメッセージ「みよし 人よし 元気よし」のロゴマークを決定し、市の認知度を向上させるシティプロモーション事業を展開しているが、これは関係人口の増加につながるものである。</p> <p>市道の維持管理は大変であり、ジモティーを活用して、労働力における需要と供給のマッチングを行い、草刈りを行っていく。事業者やシルバー人材センターの皆さんにも協力していただいている。今後、ジモティーの取組は、出会いのマッチングサイトなど他分野での可能性があることから、色々な部分に派生させていきたい。</p> <p>農業の担い手は不足しており、農業を持続可能なものにしていくことが課題である。コロナやウクライナ情勢の影響もあり、地産地消や自給自足が重要となってきている。国全体の農業施策として取り組まなければならない。統合するJAとどのような連携ができるのか検討し、地域活性化や農村地域の支援策について模索していきたい。</p>	<p>【ジモティーとは】ジモティーは、株式会社ジモティーが運営する地域の情報サイト。カテゴリー別に、利用者の目的に応じて分類された情報が掲載され、利用者は無料で情報交換をすることが可能。</p> <p>今回の三次市における実証事業は、草刈りの労働力を必要とする地域住民と作業を手伝える方のマッチングを促進する実証事業の実施として、全国初の取組である。</p>
<p>10年後に自治連合会を支える人たち(役員等)がいるか課題であり、事務局職員について、市の再雇用職員などを検討してほしい。</p>	<p>自治連合会の人員体制については、行政が全て整えることは困難であり、地域で人材を発掘していくことが重要である。市職員も、地域でしっかりと活動することを心がけている。退職後も地域で活躍できることはたくさんあると思う。</p>	
<p>寺町廃寺跡を拠点に、地域活性化を行っていきたい。市の寺町廃寺跡整備計画について、今年度は保存活用計画を策定し、課題整理や遺跡活用の体制を検討していくと聞いているが、進捗状況を教えてほしい。財政状況も厳しいが、実現に向けて頑張ってもらいたい。基本計画を策定する際等には、地元からも参加させてほしい。</p>	<p>寺町廃寺跡は、和田小学校の児童も学習の場として活用している。地域の方々には、草刈りや案内板の設置などでお世話になっている。寺町廃寺跡は、文化財として重要であり、今年度から保存活用計画を策定している。専門家も入る策定委員会を立ち上げ、保存や管理の現状把握と、次世代への継承のための課題整理を行い、保存活用計画を取りまとめるというものである。保存活用計画の策定後、整備基本計画を策定し、その後基本設計・実施設計を行う。そのため、工事着手までには5年以上かかる予定である。</p>	
<p>小学校の校庭は広いが、児童数も保護者数も減っており、整備作業が大変になっている。今後は、住民自治組織も一緒に作業するように検討している。行政としては、どこまで支援してもらえるか。</p>	<p>和田小学校のPTAの皆さんからも、小学校の草刈りについて状況を聞かせていただいている。教育委員会や学校でできること、PTAにお願いすることを精査し、来年度以降の対応を、今年度中に検討したい。また、今年度から、コミュニティスクールを三次中学校区ではじめた。学校経営をする上で、地域の皆さんにも経営者となっていただき、参画をしていただくことになる。例えば、学校の環境整備作業などに地域の方が関わり、地域と学校と保護者が一緒になって、子どもを育てる仕組みを整える。今まで以上に、地域が抱えている課題を円滑に解決できるのではないかと。</p>	

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月23日(火)

会場:和田コミュニティセンター

参加者数:18人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>災害対策について、労力と予算をかけているが、効果が薄い。駆除班もあるが、駆除する以上にイノシシやシカの頭数が増えている。ITを活用している地域の取組内容を教えてほしい。また、IT機器を借用できるのであれば、地域で活用したい。薬用作物はいい資源であり、より活発化できれば、やってみたい人も増えると思う。農業に力を入れてほしい。</p> <p>人口減少対策として、企業誘致に力を入れてほしい。学力をつけても、帰ってこない人が多い。魅力ある三次になるため、三次で働ける場を増やし、戻れるような企業を誘致してほしい。</p>	<p>遠隔操作による鳥獣被害対策を実証実験している。例えば、罠に鳥獣が入った時に、携帯電話等で確認できるシステムである。島根県美郷町では、鳥獣の生態を分析して、バッファゾーンをつくるために、草刈りを行い、見通しをよくしている。今後も、鳥獣の生態を理解していく必要がある。サルやシカによる被害も大きくなっており、生産者の意欲が減退しないように、駆除班とも連携しながら取り組みたい。</p> <p>市内各地域で、製薬会社との試験栽培に取り組んでおり、引き続き県やJAと連携しながら進めていく。</p> <p>コロナ禍により、東京一極集中が緩和され、地方の魅力が再認識されている状況を生かして、三次の魅力を発信していく。地域での労働力の確保については、企業誘致の観点から重要である。本市には、アシスタラボがあり、女性の起業支援に力を入れている。また、光ケーブルを活用して、都市部と同じような仕事ができる環境にある。本市と関係する方を増やすような取組をしていきたい。</p>	
<p>鳥獣被害対策で、IT実証実験をしており、遠隔による捕獲システムを使っている。カメラを見る用と、箱罠の扉を落とすボタンを押す用として、スマートフォン2台が必要である。イノシシなどは、夜中などに罠に入ることもあり、箱罠のボタンを押すことができない場合もある。メリットとしては、家からリアルタイムで箱罠を見ることができることである。捕獲するためには、仕掛け糸などで扉を落とすアナログとデジタルの両用を兼ねた方法でないと難しい。</p>	<p>実証実験の経験を三次でも生かしてほしい。ICT活用の課題も教えていただいたので、今後の参考にしていく。</p>	
<p>芸備線とバスは、運転できない人には必要である。先日のテレビ番組では、1台のバスが、線路も道路も走っていた。参考にしてはどうか。</p>	<p>線路と道路を走るバスについては、研究する余地がある。地域公共交通を自分事として捉え、持続可能なものになるのか検討しなければならない。通学で使っていたが、高校を卒業したら利用しなくなったという方がほとんどだと思う。国等からバックアップをいただきながら、地域公共交通のあり方を協議させていただきたい。現在、国では、鉄道ネットワークのあり方について協議会を設置するための制度化が検討されている。</p>	
<p>市役所が、三次の活性化のために、全てを担うことはできないと思う。市民が自主性をもって実現したいことを実現できるような市であれば、元気になると思うので、個人に対する補助金があればいいと思う。</p>	<p>三次市支援事業を冊子にするとともに、市ホームページで公開している。引き続き、周知していく。</p>	
<p>災害はいつ起こるかわからない。樹木の倒壊によって、倒木が家に流れてくる危険性がある。どのような対策を考えているのか。</p>	<p>倒木処理については、三次森林組合と連携協定を締結し、撤去してもらっている。また、土木事業者にも撤去してもらおう方法もある。さらに、土砂や樹木を撤去するなど、河川浚渫を計画的に進めている。流木による2次災害が予想される場合は、優先順位が高くなるので、不安なことがあればご相談いただきたい。</p>	
<p>みよし運動公園の自動販売機にあるゴミ箱は、ゴミが多く、汚かった。持ってきたゴミはみんなで持って帰ろうという運動をする必要がある。</p>	<p>環境問題は、市民一人ひとりの意識の問題である。小学校の教育段階から、環境問題について指導いただいており、子どもたちの意識が高いと感じる。一緒に取り組むことが大切であるので、市民への啓発活動を実施していきたい。</p>	